PQ_Cover_ja-JP

経済協力開発機構（OECD）
Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD)

国際教員指導環境調査（TALIS）2024
Teaching and Learning International Survey (TALIS) 2024

校長質問紙

本調査版

日本語版

国内調査実施：文部科学省国立教育政策研究所

国際コンソーシアム

国際教育到達度評価学会（IEA）（オランダ、ドイツ）

オーストラリア教育研究所（ACER）（オーストラリア）

ランドヨーロッパ（RAND Europe）（イギリス）

cApStAn（ベルギー）

PQ_Headline_Personal_Background_ja-JP

校長先生御自身について

以下の質問は、あなた御自身、あなたが受けた教育、及びあなたの校長としての立場に関するものです。 質問への回答に当たっては、当てはまるものを選択するか、必要に応じて数字を入力してください。

PQ_01_ja-JP

あなたの性別はどれですか。

当てはまるものを一つ選択してください。

☐ 女性

☐ 男性

☐ どちらともいえない

PQ_02_ja-JP

あなたの年齢をお答えください。

数字を入力してください。

☐ 歳

PQ_03_ja-JP

あなたの最終学歴は、以下のうちどれですか。

当てはまるものを一つ選択してください。

☐ 中学校・義務教育学校・中等教育学校前期課程

☐ 高等学校（専攻科を除く）・中等教育学校後期課程

☐ 高等学校専攻科

☐ 短期大学・専門職短期大学・高等専門学校・専門学校

☐ 大学学部・専門職大学（短期大学専攻科などの学士相当も含む）

☐ 大学院修士課程・大学院博士前期課程・専門職大学院（例：教職大学院）

☐ 大学院博士後期課程

PQ_04_ja-JP

常勤・非常勤にかかわらず、あなたの勤務経験は何年ですか。

育児休業などの長期休暇・休業の期間は除外してください。

勤務経験は複数の項目に当てはまることがあります。

各項目に数字を入力してください。該当しない場合は0 (ゼロ)と入力してください。

1年未満は1年に切り上げて入力してください。

(1) 現在の学校での校長としての勤務年数

[ ] 年

(2) 校長としての通算勤務年数

[ ] 年

(3) 校長以外の他の学校管理職（副校長・ 教頭）としての勤務年数

☐ 年

(4) 教員としての通算勤務年数（教育委員会の指導主事等としての年数を含む）

☐ 年

(5) 上記以外の仕事での勤務年数

☐ 年

PQ_05_ja-JP

あなたは、現在、この学校の校長の仕事の一つとして授業を行う義務がありますか。

当てはまるものを一つ選択してください。

☐ はい：50%を超える勤務時間を当てなければならない

☐ はい：50%以下の勤務時間を当てなければならない

☐ いいえ

PQ_06_ja-JP

この学校でのあなたの校長としての現在の雇用形態は、以下のうちどれですか。

当てはまるものを一つ選択してください。

- [ ] 常勤（常時勤務の90%を超える労働時間）
- [ ] 非常勤（常時勤務の71～90%の労働時間）
- [ ] 非常勤（常時勤務の50～70%の労働時間）
- [ ] 非常勤（常時勤務の50%未満の労働時間）

PQ_07_ja-JP

あなたが受けた公的な教育や研修には以下のことが含まれていましたか。含まれていた場合に、それを受けたのは校長就任前と後のどちらでしたか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	就任前	就任後	就任前と後	含まれていない
(1) 学校管理に関する、あるいは、校長を対象とした研修プログラムやコース	☐	☐	☐	☐
(2) 教員としての研修／教育プログラムやコース	☐	☐	☐	☐
(3) 学習指導に関する指導力についての研修やコース	☐	☐	☐	☐

PQ_08_ja-JP

過去12か月の間に、以下の校長向けの専門的な学習に参加しましたか。

専門的な学習とは、個々人の技能や知識、専門性を開発するための諸活動のことをいいます。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

はい（対面）	はい (バーチャル又はオンライン)	はい (対面とバーチャル/オンライン)	いいえ
(1) 教科の内容、指導法、教育に関する講座やセミナー、ワークショップ			
☐	☐	☐	☐
(2) リーダーシップに関する講座やセミナー、ワークショップ			
☐	☐	☐	☐
(3) 教員、校長や研究者による研究発表、教育問題に関する議論を行う会議			
☐	☐	☐	☐
(4) 公式な資格習得プログラム（例：学位課程）			
☐	☐	☐	☐
(5) 公式な取組である同僚の観察・助言又は自己観察、コーチング活動			
☐	☐	☐	☐
(6) 専門的な学習を目的とする公式又は非公式の校長ネットワーク			
☐	☐	☐	☐
(7) 自発的な学習活動			
☐	☐	☐	☐

(8) ICT等（デジタルリソースやツール）の教育への活用方針策定に関する講座やセミナー、ワークショップ

☐ ☐ ☐ ☐

(9) その他

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_09_ja-JP

過去12か月の間に、以下の校長向けの専門的な学習に参加しましたか。

「環境の持続可能性」とは、将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在の必要不可欠なニーズを満たすことをいいます。 これには、天然資源の保全と地球の生態系の保護も含まれます。 気候変動は、環境の持続可能性を脅かす主な要因の一つです。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

はい　　いいえ

(1) 環境の持続可能性に関する知識や理解

☐ ☐ ☐ ☐

(2) この学校の環境の持続可能性に関する実践やエコロジカル・フットプリント（例：省エネや節水、消費量削減、リサイクル） を改善する方法

☐ ☐ ☐ ☐

(3) 環境の持続可能性について指導する教員を支援する方法

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_10_ja-JP

以下の各領域について、それぞれどの程度、専門的な学習活動の必要性を現在感じていますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	全くなし	あまりなし	ある程度	高い
(1)	リーダーシップに関する新しい研究や理論についての知識や理解	☐	☐	☐	☐
(2)	現在の国や地方自治体の教育政策についての知識や理解	☐	☐	☐	☐

(3) 学校の質を向上するためのデータの活用

☐ ☐ ☐ ☐

(4) 学校の教育課程の編成

☐ ☐ ☐ ☐

(5) 教員向け又は教員と共に行う専門的な学習の計画

☐ ☐ ☐ ☐

(6) 授業実践の観察

☐ ☐ ☐ ☐

(7) 効果的なフィードバックの実施

☐ ☐ ☐ ☐

(8) 公平性と多様性の促進

☐ ☐ ☐ ☐

(9) 教員間の連携の向上

☐ ☐ ☐ ☐

(10) 学校経営（例：人事管理、財務管理）

☐ ☐ ☐ ☐

(11) ICT等（デジタルリソースやツール）の教育への活用方針の策定

☐ ☐ ☐ ☐

(12) 環境の持続可能性に関する知識や理解

☐ ☐ ☐ ☐

(13) 教職員のウェルビーイング（幸せ）の増進

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_Headline_School_Background_ja-JP

あなたの学校について

PQ_12_ja-JP

学校が所在する市町村は、以下のどれに当たりますか。

当てはまるものを一つ選択してください。（東京23区は「人口100万人を超える市町村」を選択してください。）

☐ 人口3,000人以下の市町村

☐ 人口3,000人を超え、1万5,000人以下の市町村

☐ 人口1万5,000人を超え、10万人以下の市町村

☐ 人口10万人を超え、100万人以下の市町村

☐ 人口100万人を超える市町村

PQ_13_ja-JP

通常の年度における、あなたの学校の財源のうち、次のものがそれぞれ何%を占めていますか。

それぞれについて、当てはまる数字を入力してください。

該当しない場合は0 (ゼロ)と入力してください。

(1) 公的資金（国、地方自治体、国際的な機関を含む）

☐ %

(2) 保護者負担の授業料又は手数料

[ ] %

(3) その他（例：寄付金、助成金、基金）

[ ] %

PQ_14_ADL_ja-JP

あなたの学校は、以下のうちどれですか。

当てはまるものを一つ選択してください。

- [ ] 国公立
- [ ] 私立

PQ_15_ja-JP

あなたの学校の以下に該当する教職員数（人数）を教えてください。

複数の項目に該当することもあります。 臨時の教職員及び派遣業者を介して採用している教職員も含めてください。

各項目に数字を入力してください。 該当しない場合は0 (ゼロ)と入力してください。

(1) 教員

児童／生徒への指導を主たる業務とする者

□ 人

(2) 指導支援に携わる職員

教員の補助者や教員以外で指導や教員補助を行う職員、教育課程や学習指導の専門職、教育メディアに関する専門職（司書）、心理学や療法・看護の専門職を含む

□ 人

(3) 学校の事務に携わる職員

受付担当者、秘書、経理、事務補助員を含む

□ 人

(4) 学校の経営に携わる職員

校長、副校長・教頭、その他学校経営に関することを主たる業務とする者を含む

□ 人

(5) その他の職員（例：給食・食堂スタッフ、清掃員、技術者、警備員）

□ 人

PQ_16_ja-JP

あなたの学校の以下に該当する教職員数（人数）を教えてください。

非常勤の教職員、及び今年度に勤務を始めた教職員も含めてください。

定年退職、育児休業、臨時教員などの、何らかの事情がある教職員も数えてください。

各項目に数字を入力してください。 該当しない場合は0 (ゼロ)と入力してください。

(1) 過去12か月の間で、この学校で勤務を始めた教員

☐ 人

(2) 過去12か月の間で、異動や退職などにより、恒久的にこの学校を離れた教員

☐ 人

(3) 授業がある直近の火曜日に欠勤した又は指導できなかった教員

☐ 人

PQ_17_ADL_ja-JP

あなたの学校では、以下の学校段階の教育を行っていますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	行っている	行っていない
(1) 幼稚園・保育所・認定こども園	☐	☐
(2) 小学校 （義務教育学校前期課程を含む）	☐	☐
(3) 中学校（義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程を含む）	☐	☐
(4) 高等学校（専攻科を除く）・中等教育学校後期課程　普通科・総合学科	☐	☐
(5) 高等学校（専攻科を除く）・中等教育学校後期課程　専門学科	☐	☐

PQ_18_ja-JP

現在の全学年の在学者数は何人ですか。

数字を入力してください。

☐ 人

PQ_19_ja-JP

児童／生徒の入学を許可する際には、以下のことはどのくらいの頻度で考慮されましたか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	なし	時々	頻繁に	常に
(1) 特定の区域に居住していること	☐	☐	☐	☐
(2) 児童／生徒の学業成績（入学試験を含む）	☐	☐	☐	☐
(3) 学校等の推薦	☐	☐	☐	☐
(4) 学校の教育や宗教に関する理念に対する親の賛同	☐	☐	☐	☐
(5) 児童／生徒に特別教育プログラムが必要かどうか、あるいは、特別教育プログラムに関心があるか	☐	☐	☐	☐

(6) 在校生や卒業生の家族に与えられる優遇措置

☐ ☐ ☐ ☐

(7) 緊急事態（例：紛争、自然災害、健康関連の危機）

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_20_ja-JP

能力に差のある児童／生徒のクラス編成について、あなたの学校がとっている方針は次のどれですか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	どの教科にも当てはまらない	一部の教科に当てはまる	全ての教科に当てはまる
(1) 児童／生徒を能力別に別のクラスに分ける	☐	☐	☐
(2) クラス内で児童／生徒を能力別に分ける	☐	☐	☐

PQ_21_a_ja-JP

この1か月間、児童／生徒はどのようにこの学校の授業に参加しましたか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	なし	いくつかの授業	全授業
(1) 全ての児童／生徒が対面で授業を受けた	☐	☐	☐
(2) 全ての児童／生徒がオンラインで授業を受けた	☐	☐	☐
(3) 対面で授業を受ける児童／生徒もいれば、オンラインで授業を受ける児童／生徒もいた	☐	☐	☐

PQ_21_ADL_ja-JP

あなたの学校において、以下のような中学校・義務教育学校・中等教育学校前期課程の生徒のおよその割合を推定してください。なお、中等教育学校の場合は前期課程（中学校段階）について、また、義務教育学校の場合は後期課程（中学校段階）について回答してください。

一人の生徒が複数の項目に当てはまることがあり得ます。

「特別な教育支援を要する生徒」とは、精神的、身体的又は情緒的に困難な条件にあることによって、特別な教育を行う必要性が公式に認定されている生徒を指すものとします。 多くの場合、その教育支援のために公的なあるいは民間からの何らかの追加的な（人的、物的、財政的）資源（リソース）が提供されています。

「社会経済的に困難な家庭環境」とは、住居や栄養、医療などの生活上必要な基礎的な条件を欠いている家庭環境のことをいいます。

「少数民族又は先住民族」とは、地理的な場所や先祖の起源、文化的伝統、信仰、社会的規範、共通の遺産や言語、移民としての地位や起源となる民族に相当するような共通の特徴や過去の歴史の結果として存在する集団のことをいいます。

「移民の生徒」とは、国外で生まれた人を指します。「移民の背景をもつ生徒」とは国外で生まれた親をもつ生徒のことをいいます。

「難民」とは、法的な地位にかかわらず、武力闘争、政治的抑圧、宗教迫害、自然災害などから身を守るために、国外へ避難した人をいいます。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	なし	1% ～ 10%	11% ～ 30%	31% ～ 60%	61% ～ 90%	91% ～ 99%	全員
(1) 指導言語の理解が困難な生徒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

(2) 母語が日本語でない生徒

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(3) 特別な教育支援を要する生徒

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(4) 社会経済的に困難な家庭環境にある生徒

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(5) 少数民族又は先住民族の生徒

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(6) 男子生徒

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(7) 移民の生徒、又は移民の背景をもつ生徒（難民を除く）

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(8) 難民の生徒

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

PQ_21_AXL_01_ja-JP

あなたの学校において、以下のような小学校・義務教育学校前期課程の児童のおよその割合を推定してください。

一人の児童が複数の項目に当てはまることがあり得ます。

「特別な教育支援を要する児童」とは、精神的、身体的又は情緒的に困難な条件にあることによって、特別な教育を行う必要性が公式に認定されている児童を指すものとします。 多くの場合、その教育支援のために公的なあるいは民間からの何らかの追加的な（人的、物的、財政的）資源（リソース）が提供されています。
「社会経済的に困難な家庭環境」とは、住居や栄養、医療などの生活上必要な基礎的な条件を欠いている家庭環境のことをいいます。

「少数民族又は先住民族」とは、地理的な場所や先祖の起源、文化的伝統、信仰、社会的規範、共通の遺産や言語、移民としての地位や起源となる民族に相当するような共通の特徴や過去の歴史の結果として存在する集団のことをいいます。

「移民の児童」とは、国外で生まれた人を指します。 「移民の背景をもつ児童」とは国外で生まれた親をもつ児童のことをいいます。

「難民」とは、法的な地位にかかわらず、武力闘争、政治的抑圧、宗教迫害、自然災害などから身を守るために、国外へ避難した人をいいます。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	なし	1% ～ 10%	11% ～ 30%	31% ～ 60%	61% ～ 90%	91% ～ 99%	全員
(1) 指導言語の理解が困難な児童	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

(2) 母語が日本語でない児童

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(3) 特別な教育支援を要する児童

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(4) 社会経済的に困難な家庭環境にある児童

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(5) 少数民族又は先住民族の児童

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(6) 男子児童

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(7) 移民の児童、又は移民の背景をもつ児童（難民を除く）

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(8) 難民の児童

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

PQ_22_ADL_ja-JP

あなたの学校には、学校運営チーム（例：運営委員会）がありますか。

「学校運営チーム」とは、学校が適切に機能するため、学習指導、資源の活用、カリキュラム、評価に関する意思決定や、その他の戦略的意思決定を主導・運営することについて責任を有する学校内の集団を指します。チームは、典型的には、校長、副校長・教頭、主任等（分掌や教科の長）により構成されます。
日本の法令上の学校運営協議会や学校評議員、学校法人の理事会や評議員会は、この「学校運営チーム」には当たりません。

当てはまるものを一つ選択してください。

☐ はい

☐ いいえ

PQ_23_ADL_ja-JP

学校運営チームには、現在、以下の人々が参加していますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

| | はい | いいえ | 該当なし |

(1) 校長

☐ ☐ ☐

(2) 副校長・教頭

☐ ☐ ☐

(3) 財務の管理者（例：経理、会計担当者）

☐ ☐ ☐

(4) 主任

☐ ☐ ☐

(5) 教員

☐ ☐ ☐

(6) 保護者

☐ ☐ ☐

(7) 児童／生徒

☐ ☐ ☐

(8) その他

☐ ☐ ☐

PQ_24_ADL_ja-JP

あなたの学校では、以下のことについて重要な責任をもつのはどなたですか。

「重要な責任」とは、意思決定が行われる際、積極的な役割を果たすことをいいます。

それぞれについて、当てはまるもの全てを選択してください。

	校長	校長以外の学校運営チームのメンバー	学校運営チーム以外の教員	国・地方自治体
(1) 教員の採用	☐	☐	☐	☐
(2) 教員の解雇又は停職	☐	☐	☐	☐
(3) 教員の初任給（給与体系を含む）の決定	☐	☐	☐	☐

(4) 教員の昇給の決定

☐ ☐ ☐ ☐

(5) 学校内の予算配分の決定

☐ ☐ ☐ ☐

(6) 児童／生徒の品行規則の設定

☐ ☐ ☐ ☐

(7) 児童／生徒の評価方針（全国的な評価方針を含む）の設定

☐ ☐ ☐ ☐

(8) 児童／生徒の入学許可

☐ ☐ ☐ ☐

(9) 教科書・教材の選定

☐ ☐ ☐ ☐

(10) 履修内容（全国的なカリキュラム（学習指導要領）を含む）の決定

☐ ☐ ☐ ☐

(11) 履修コースの選定

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_25_ADL_ja-JP

あなたの学校では、以下の分野について重要な責任をもつのはどなたですか。

「重要な責任」とは、意思決定が行われる際、積極的な役割を果たすことをいいます。

それぞれについて、当てはまるもの全てを選択してください。

	校長	校長以外の学校運営チームメンバー	学校運営チーム以外の教員	国・地方自治体
(1) 指導にICT等（デジタルリソースやツール）を使用するかの判断	☐	☐	☐	☐
(2) この学校の環境の持続可能性に関する実践やエコロジカル・フットプリント（例：省エネや節水、消費量削減、リサイクル）の改善	☐	☐	☐	☐
(3) 児童／生徒の多様性に関する方針の決定	☐	☐	☐	☐

(4) 教員の多様性に関する方針の決定	☐	☐	☐	☐
(5) 児童／生徒の社会情緒的発達を支援するための教員の専門的な学習の促進	☐	☐	☐	☐
(6) 学校改善の優先事項の決定	☐	☐	☐	☐

PQ_Headline_School_Leadership_ja-JP

学校のリーダーシップ

PQ_26_ja-JP

この学校において、あなたは校長として、一学年度の平均で以下の仕事をそれぞれどのくらいの頻度で行いますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	なし又はほとんどなし	年に数回	月1回未満	毎月	毎週	毎日	1日に複数回

(1) リーダーシップに関する業務や打合せ方針の立案、学校改善計画の策定などのリーダーシップやマネジメント、教職員採用などの人事管理を含む

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(2) 教育課程や学習指導に関わる業務や会議

カリキュラム開発、授業、学級観察、児童／生徒の評価、校内指導（メンタリング)、教員の専門的な学習を含む

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(3) 教職員との関わり

助言、フィードバックや評価、授業ではない学校の活動を含む

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(4) 児童／生徒との関わり

規律管理、カウンセリング、課外での対話を含む

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(5) 保護者との関わり

公式なものと非公式なものの双方を含む

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(6) 地域コミュニティや産業界との関わり

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(7) 緊急事態への対応

学校設備の破損、コミュニティや国家の危機への対応を含む

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(8) 管理に関する業務や打合せ
規則管理、報告、学校の予算管理、日程や学級の編制、国や自治体関係者からの要請への対応を含む

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(9) その他

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

PQ_27_ja-JP

<u>過去12か月</u>の間に、あなたの学校では、以下のことをどのくらいの頻度で行いましたか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	なし	時々	しばしば	頻繁に
(1) 学級内の規律の問題を教員と協力して解決した	☐	☐	☐	☐
(2) 授業を観察した	☐	☐	☐	☐
(3) 観察した内容に基づいて教員にフィードバックを行った	☐	☐	☐	☐

(4) 新たな指導実践を開発するための教員間の協力を支援する取組を行った

☐ ☐ ☐ ☐

(5) 教員が責任をもって指導力を向上するよう取組を行った

☐ ☐ ☐ ☐

(6) 教員が担当する児童／生徒の学習成果に責任を感じるよう取組を行った

☐ ☐ ☐ ☐

(7) 保護者に学校と児童／生徒の成果についての情報を提供した

☐ ☐ ☐ ☐

(8) 学校事務に関する手順や報告について見直した

☐ ☐ ☐ ☐

(9) 時間割に関する問題を解決した

☐ ☐ ☐ ☐

(10) 困難を感じている業務について他校の校長と協働した

☐ ☐ ☐ ☐

(11) この学校での専門的な学習の計画策定に関わった

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_28_ja-JP

過去12か月の間に、あなたの学校では、以下に関連する取組をどのくらいの頻度で行いましたか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	なし	時々	しばしば	頻繁に
(1) 指導へのICT等（デジタルリソースやツール）の導入の支援	☐	☐	☐	☐
(2) 児童／生徒の多様性のサポート	☐	☐	☐	☐
(3) 教員の多様性のサポート	☐	☐	☐	☐
(4) 児童／生徒の社会情緒的発達の向上	☐	☐	☐	☐

(5) この学校の環境の持続可能性に関する実践やエコロジカル・フットプリント（例：省エネや節水、消費量削減、リサイクル）の改善

☐ ☐ ☐ ☐

(4) 気候変動に関する指導に関心をもつ教員の支援

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_30_ja-JP

この学校の教員について、以下のことはどの程度当てはまりますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	全く当てはまらない	当てはまらない	当てはまる	非常に当てはまる
(1) 教員は、専門的な学習のためのコミュニティを主導している	☐	☐	☐	☐
(2) 教員は、率先して共同活動を行っている	☐	☐	☐	☐

(3) 教員は、できる限り率先して自身の専門性を向上させている

☐ ☐ ☐ ☐

(4) 教員は、授業ではない学校行事やプロジェクトに参加している

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_31 (ISCED1)_ja-JP

あなたの学校では、子供の幼児教育・保育施設からの接続が円滑に進むようにするために、以下のことを行っていますか。

幼児教育・保育施設とは、生まれてから小学校入学までの幼児のための正式な幼児教育・保育（ECEC）プログラムを提供する施設として公的に登録されている施設であり、幼稚園・保育所・認定こども園のことをいいます。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	はい	いいえ
(1) 就学予定の子供について幼児教育・保育施設と連絡を取る	☐	☐

(2) 就学予定の子供向けの学校見学をする

☐ ☐

(3) 幼児教育・保育施設の職員と会合をもつ

☐ ☐

(4) 幼小接続に関する問題について教員の現職研修を行う

☐ ☐

(5) 地方自治体と協働して、幼小接続のプログラムやカリキュラムを作成する

☐ ☐

(6) 保護者向けに、幼小接続について理解するための活動を提供する（例：説明会、保護者会、家庭訪問）

☐ ☐

(7) その他

☐ ☐

PQ_Headline_Induction_ja-JP

新任研修、校内指導（メンタリング）及び公的な評価

PQ_32_ja-JP

この学校では、どのような教員が次の新任研修に参加できますか。

「新任研修」とは、初任者に対する教職への導入を支援したり、又は経験がある教員に対する新しい赴任校への導入を支援したりする研修のことです。

「新任研修」とは、校長による定期的な監督指導、指導上の負担の軽減、経験豊富な教員による公式な校内指導などを内容とする構造化された「公式な新任研修」、もしくは、学校や仕事についての一般的な説明、他の新任教員と行う非公式の共同作業又は新任者用ハンドブックなどを内容とする構造化されていない「非公式な新任研修」のことです。

「初めて教職に就いた者」とは、教員としての報酬を伴う勤務経験が1年未満の者を指します。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	この学校に新たに着任した全ての教員	初めて教職に就いた者のみ	なし
(1) 公式な新任研修	☐	☐	☐
(2) 非公式な新任研修	☐	☐	☐

PQ_33_ADL_ja-JP

この学校の教員が受ける新任研修には、以下のような内容が含まれていますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	はい	いいえ
(1) 対面式の講座やセミナー、ワークショップ	☐	☐
(2) オンライン上の講座やセミナー、ワークショップ	☐	☐
(3) オンライン上の活動（例：バーチャルコミュニティ）	☐	☐
(4) 校長や経験豊富な教員との話合いの設定	☐	☐
(5) 校長や経験豊富な教員による監督指導	☐	☐
(6) 他の教員との交流及び連携	☐	☐

(7) 経験豊富な教員とのチーム・ティーチング	☐	☐
(8) 日誌、記録の作成	☐	☐
(9) 指導上の負担の軽減	☐	☐
(10) 一般的な学校事務の説明	☐	☐

PQ_34_ja-JP

あなたの学校には教員向けの校内指導（メンタリング）のプログラムがありますか。

「校内指導（メンタリング)」は、経験のある教員が経験の少ない教員を支援する校内の仕組みのことです。 学校内の全教員を対象にすることもあれば、初任者だけを対象にすることもあります。

当てはまるものを一つ選択してください。

☐ 初めて教職に就いた者のみ（教員として報酬を伴う勤務経験が1年未満の者）を対象としたプログラムがある

☐ この学校に着任した全ての教員を対象としたプログラムがある

☐ この学校の全ての教員を対象としたプログラムがある

☐ 現時点において、教員向けの校内指導（メンタリング）のプログラムはない

PQ_35_ja-JP

校内指導者（メンター）の主な担当教科等は、指導を受ける教員の主な担当教科等と同じですか。

当てはまるものを一つ選択してください。

☐ 大半の場合同じ

☐ 同じ場合が時々ある

☐ 同じ場合はほとんどない

PQ_37_ja-JP

あなたの学校では、以下の人々による各教員への公的な評価が、平均してどのくらいの頻度で行われていますか。

「公的な評価」とは、非公式な手法（例：非公式の話合いによる場合）ではなく、公式な手法（例：所定の手続や基準に基づく正規の業績管理システムの一部として行われる場合）により、校長、外部の個人又は機関や同僚教員が公式に教員の仕事を振り返りながら確認することをいいます。

いずれの選択肢もあなたの学校の状況にそぐわない場合には、最も近い選択肢を選んでください。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	なし	1年に1回未満	1年に1回	1年に2回以上
(1) 校長	☐	☐	☐	☐
(2) 校長以外の学校運営チームメンバー	☐	☐	☐	☐
(3) 校内指導者（メンター）	☐	☐	☐	☐

(4) 学校運営チーム以外の教員

☐ ☐ ☐ ☐

(5) 外部の個人又は機関による評価 (例：文部科学省の関係者、地方自治体の関係者、教育委員会の関係者、その他の学校教職員以外の者)

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_38_ja-JP

あなたの学校では、公的な評価の一環として、どなたが以下の情報を参考にしていますか。

それぞれについて、当てはまるもの全てを選択してください。

	外部の個人又は機関	校長	校長以外の学校運営チームメンバー	校内指導者（メンター）	学校運営チーム以外の教員	行っていない
(1)	授業観察	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(2)	教員の指導に関する児童／生徒へのアンケートの結果	☐	☐	☐	☐	☐	☐

(3) 教科内容に関する教員の知識についての評価

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(4) 指導している児童／生徒の外部テスト（例：全国学力調査）の結果

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(5) 学校内と学級内での児童／生徒の成果（例：成績、プロジェクトの成果、テストの点数）

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(6) あなたの自己評価（例：ポートフォリオ評価の提出、ビデオを使った自身の授業分析）

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

PQ_39_ja-JP

あなたの学校では、公的な教員評価の結果を受けて、以下のことがどのくらいの頻度で行われていますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	なし	時々	頻繁に	常に
(1) 授業での指導の欠点を改善する方策について教員と話合いをもつ	☐	☐	☐	☐

(2) 研修計画を策定する

☐ ☐ ☐ ☐

(3) 定期昇給の減額などの処分を課す

☐ ☐ ☐ ☐

(4) 指導の改善を支援する校内指導者（メンター）を指名する

☐ ☐ ☐ ☐

(5) 校内での職務責任を変更する（例：担当時間数や校務分掌に関する責任、校内指導者の責任を増やす又は減らす）

☐ ☐ ☐ ☐

(6) 給与や賞与の額を増やす

☐ ☐ ☐ ☐

(7) 教員の昇進の見込みを変える

☐ ☐ ☐ ☐

(8) 教員の解雇や雇用契約の不更新

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_Headline_School_Climate_ja-JP

学校の雰囲気

PQ_40_ja-JP

この学校について、以下のことはどの程度当てはまりますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	全く当てはまらない	当てはまらない	当てはまる	非常によく当てはまる
(1)	☐	☐	☐	☐
(2)	☐	☐	☐	☐
(3)	☐	☐	☐	☐
(4)	☐	☐	☐	☐

(1) この学校は、教職員が学校の意思決定に積極的に参加する機会を提供している

(2) この学校は、保護者が学校の意思決定に積極的に参加する機会を提供している

(3) この学校は、児童／生徒が学校の意思決定に積極的に参加する機会を提供している

(4) 重要な意思決定は私自身が行う

(5) お互いに助け合う協力的な学校文化がある

☐ ☐ ☐ ☐

(6) 教職員が、指導や学習についての信念を共有している

☐ ☐ ☐ ☐

(7) 学校は、教職員が率先して新しい試みをするよう促している

☐ ☐ ☐ ☐

(8) 教員は、互いに信頼しあうことができる

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_41_ja-JP

あなたの学校では、以下のことがどの程度当てはまりますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

全くなし	いくらか当てはまる	かなり当てはまる	非常によく当てはまる

(1) 教員は教育課程の目標を理解している

☐ ☐ ☐ ☐

(2) 教員は教育課程を実施できている

☐ ☐ ☐ ☐

(3) 教員は児童／生徒の成績に高い期待を抱いている

☐ ☐ ☐ ☐

(4) 保護者は、児童／生徒が良い成績を修めるよう支援している

☐ ☐ ☐ ☐

(5) 保護者は学校の活動に参加している

☐ ☐ ☐ ☐

(6) 児童／生徒は学校で良い成績を取りたいという意欲をもっている

☐ ☐ ☐ ☐

(7) 児童／生徒は成績の良い同級生に嫌がらせをしている

☐ ☐ ☐ ☐

(8) 学校は地域のコミュニティと協力している

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_42_ja-JP

あなたの学校では、現在、質の高い指導を行う上で、以下のことがどの程度妨げになっていますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	全く妨げになっていない	いくらか妨げになっている	かなり妨げになっている	非常に妨げになっている
(1) 資格をもつ教員の不足	☐	☐	☐	☐
(2) 特別な教育支援を要する児童／生徒への指導能力をもつ教員の不足	☐	☐	☐	☐
(3) 職業教育を行う教員の不足	☐	☐	☐	☐
(4) 教材(教科書など)が不足している、あるいは適切でない	☐	☐	☐	☐
(5) 指導のためのICT等（デジタルリソースやツール）が不足している、あるいは適切でない	☐	☐	☐	☐

(6) インターネット接続環境が不十分である

☐ ☐ ☐ ☐

(7) 図書館の教材が不足している、あるいは適切でない

☐ ☐ ☐ ☐

(8) 支援職員の不足

☐ ☐ ☐ ☐

(9) 指導のための場所が不足している、あるいは適切でない（例：教室）

☐ ☐ ☐ ☐

(10) 物理的な施設設備が不足している、あるいは適切でない （例：学校家具、校舎、空調機、照明器具）

☐ ☐ ☐ ☐

(11) 多言語又は多文化の環境で、児童／生徒を指導する能力をもつ教員の不足

☐ ☐ ☐ ☐

(12) 社会経済的に困難な家庭環境にある児童／生徒を指導する能力をもつ教員の不足

☐ ☐ ☐ ☐

(13) 職業能力を訓練するために必要な教材が不足している、あるいは適切でない

☐ ☐ ☐ ☐

(14) 教育的リーダーシップを発揮する時間が不足している、あるいは適切でない

☐ ☐ ☐ ☐

(15) 公益サービスが不十分である（例：上下水道、電気）

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_43 (Version A)_ja-JP

あなたの学校では、以下のことが生徒の間でどのくらいの頻度で起こっていますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	なし	月1回未満	毎月	毎週	毎日
(1)	器物損壊・窃盗	☐	☐	☐	☐	☐

(2) 校内での児童／生徒間の脅迫又はいじめ（又は、他の形態の暴言）

☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(3) オンライン上での児童／生徒間の脅迫又はいじめ（又は、他の形態の暴言）

☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(4) 児童／生徒間の暴力による身体的危害

☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(5) 校内での教職員への脅迫又は暴言

☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(6) オンライン上での教職員への脅迫又は暴言

☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(7) 薬物の使用・所持や飲酒

☐ ☐ ☐ ☐ ☐

PQ_Headline_Schooling_Environments_ja-JP

多様な環境における学校教育

このセクションでは、多様性を考慮した学校の方針や実践についてお尋ねします。

「多様性」とは、児童／生徒や教職員の民族的、文化的又は社会経済的背景や、ジェンダーアイデンティティ、学習ニーズの違いを認識し、尊重することを指します。

PQ_45_ja-JP

あなたの学校には、異なる文化的又は民族的な背景をもつ児童／生徒がいますか。

当てはまるものを一つ選択してください。

☐ はい

☐ いいえ

PQ_46_ja-JP

あなたの学校では、多様性に関する次のような取組や実践が行われていますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	はい	いいえ
(1) 多様な民族的、文化的なアイデンティティについて児童／生徒の表現を促す活動や組織を支援する（例：芸術的なグループ）	☐	☐
(2) 多文化的な行事を開催している(例：異文化と触れ合う学校でのイベント)	☐	☐
(3) 民族的、文化的な差別にどう取り組むかを児童／生徒に教える	☐	☐
(4) カリキュラム全体を通して、地球規模の問題を取り入れた指導及び学習の実践を導入する	☐	☐
(5) 様々な民族や文化の人々が描かれた本や写真・絵を取り入れる	☐	☐

(6) 児童／生徒やその家庭の多様な背景と同様の背景をもつ教員を採用する

☐ ☐

(7) 特別な教育支援を要する児童／生徒へ追加の支援を行う

☐ ☐

(8) 児童／生徒に、異なる社会経済的な背景をもつ人々を受け入れるよう教える

☐ ☐

(9) 性差別に対する方針を明確にする

☐ ☐

(10) 社会経済的な差別に対する方針を明確にする

☐ ☐

(11) 不利な背景をもつ児童／生徒へ追加の支援を行う

☐ ☐

(12) 多様な性的指向やジェンダーアイデンティティをもつ児童／生徒にとって安全な雰囲気の学校となるように促進する

☐ ☐

PQ_47_ja-JP

あなたの意見では、この学校で、およそ何人くらいの教員が次のことに同意すると思いますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	いない、又はほとんどいない	数人いる	多数いる	全員、又はほとんど全員
(1) 児童／生徒の文化的背景の違いにすぐに対応できることは重要である	☐	☐	☐	☐
(2) 異なる文化の人々は異なる価値観をもち得ることを児童／生徒が学ぶのは重要である	☐	☐	☐	☐
(3) 子供や若者は、できるだけ早い時期に多文化を尊重することを学ぶべきである	☐	☐	☐	☐

(4) 子供や若者は、文化的に異なる人々の間に多くの共通点があることを学ぶべきである

☐ ☐ ☐ ☐

(5) 学校は、異なる社会経済的な背景をもつ児童／生徒が共に活動することを促すべきである

☐ ☐ ☐ ☐

(6) 児童／生徒は、性差別を避ける方法を学ぶべきである

☐ ☐ ☐ ☐

(7) 全ての児童／生徒を性別に関わりなく平等に対応することは重要である

☐ ☐ ☐ ☐

(8) どのような社会経済的な背景をもつ児童／生徒に対しても、同じように対応することは重要である

☐ ☐ ☐ ☐

(9) 特別な教育支援を要する児童／生徒の比率が高い学級は、学習経験を豊かにする

☐ ☐ ☐ ☐

(10) 児童／生徒は学校で多様な性的指向やジェンダーアイデンティティを安心して表明できるようにするべきである

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_Headline_Edu_Sustain_ja-JP

教育と環境の持続可能性

このセクションでは、気候変動に重点を置きながら、環境の持続可能性を考慮した学校の方針や実践についてお尋ねします。

「環境の持続可能性」とは、将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在の必要不可欠なニーズを満たすことをいいます。　これには、天然資源の保全と地球の生態系の保護も含まれます。　気候変動は、環境の持続可能性を脅かす主な要因の一つです。

「気候変動」は、地球の温暖化を含み、海面上昇、氷河の縮小、加速する極氷の溶解、花や植物の開花期の変化など、より広い意味での変動と、それによる環境、経済、社会への影響を指します。

PQ_48_ja-JP

以下のことは、環境の持続可能性に関する教育について支援するあなたの校長としての役割にどの程度当てはまると思いますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

全く当てはまらない	当てはまらない	当てはまる	非常によく当てはまる

(1) 校長として、教育課程を通じて環境の持続可能性に取り組むことは重要だ

☐ ☐ ☐ ☐

(2) 教育課程に環境の持続可能性を取り入れることについて、学校の方針を定めるために必要な資源がある

☐ ☐ ☐ ☐

(3) 教員が環境の持続可能性に関して指導できるように支援する自信がある

☐ ☐ ☐ ☐

(4) 私のような者には、環境の持続可能性に大きく貢献することはあまりにも難しい

☐ ☐ ☐ ☐

(5) 気候変動に関する指導について、保護者から苦情が出ないか心配だ

☐ ☐ ☐ ☐

(6) 地球の環境の将来についての児童／生徒の不安に耳を傾けている

☐ ☐ ☐ ☐

(7) 児童／生徒が気候変動について行動を起こせるよう、教員に働きかけている

☐ ☐ ☐ ☐

(8) 様々な教科を横断して気候変動について指導するよう、教員に働きかけている

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_51_ADL_ja-JP

あなたの学校では、気候変動についての指導を行う上で、以下のことはどの程度妨げになっていると思いますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

全く妨げになっていない	いくらか妨げになっている	かなり妨げになっている	非常に妨げになっている

(1) 教員が自身の担当教科とは関係ないと考えている

☐ ☐ ☐ ☐

(2) 教員が児童／生徒の年齢では早すぎると考えている

☐ ☐ ☐ ☐

(3) 教員に十分な知識がない

☐ ☐ ☐ ☐

(4) 教員が指導に必要な教材をもっていない

☐ ☐ ☐ ☐

(5) 教員が気候変動を信じていない

☐ ☐ ☐ ☐

(6) 地方自治体・国が、気候変動についての指導を認めていない

☐ ☐ ☐ ☐

(7) 教員は気候変動について児童／生徒が既に学校で学んだと考えている

☐ ☐ ☐ ☐

(8) カリキュラムの融通が利かない

☐ ☐ ☐ ☐

(9) カリキュラムで指導が必須となっていない

☐ ☐ ☐ ☐

(10) 評価に気候変動は含まれない

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_52_ja-JP

あなた個人として、気候変動にどの程度関心がありますか。

当てはまるものを一つ選択してください。

☐ 全くない

☐ いくらかある

☐ かなりある

☐ 非常にある

PQ_53_ja-JP

世界の気候やここ数十年間に気候が変化しているという考え方については多くの議論が行われています。 以下のうち、あなたの意見に最も近いのはどれですか。

当てはまるものを一つ選択してください。

- [ ] 世界の気候は変化していない
- [ ] 世界の気候が変化しているのは、自然現象によるところが多い
- [ ] 世界の気候が変化している原因は、自然現象と人の活動がおよそ半々である
- [ ] 世界の気候が変化しているのは、人の活動によるところが多い
- [ ] わからない

PQ_Headline_Occupational_Perc_ja-JP

職業に対する意識

PQ_54_ja-JP

今後何年間、校長として働き続けたいと思いますか。

数字を入力してください。

☐ 年

PQ_53_a_ja-JP

あなたの学校で校長としての経験の中で、以下のことはどの程度当てはまりますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	全くない	いくらかある	かなりある	非常によくある
(1) 職務上のストレスを感じる	☐	☐	☐	☐
(2) 私生活を送る時間を確保できている	☐	☐	☐	☐

(3) 校長としての職務が精神的に悪影響をもたらしている

☐ ☐ ☐ ☐

(4) 校長としての職務が身体的に悪影響をもたらしている

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_55_ja-JP

あなたの学校での業務に関して、以下のことはどの程度ストレスに感じますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

全く感じない	いくらか感じる	かなり感じる	非常によく感じる

(1) 教員の評価やフィードバックなどの業務が多すぎること

☐ ☐ ☐ ☐

(2) 事務的な業務が多すぎること（例：書類の記入）

☐ ☐ ☐ ☐

(3) 教職員の欠勤による追加的な業務があること

☐ ☐ ☐ ☐

(4) 児童／生徒の学力に対して責任を負っていること

☐ ☐ ☐ ☐

(5) 学校の規律を保つこと

☐ ☐ ☐ ☐

(6) 児童／生徒に脅迫されたり児童／生徒から暴言を受けたりすること

☐ ☐ ☐ ☐

(7) 地方自治体・国からの要求の変化に対応すること

☐ ☐ ☐ ☐

(8) 保護者の懸念に対処すること

☐ ☐ ☐ ☐

(9) 特別な教育支援を要する児童／生徒の環境を整えること

☐ ☐ ☐ ☐

(10) 児童／生徒の社会情緒的ウェルビーイング（幸せ）に責任を負っていること

☐ ☐ ☐ ☐

(11) 学校の指導実践を予期せぬ事態に適応させなければならないこと（例：自然災害、公衆衛生上の緊急事態・パンデミック、人道危機）

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_56_ja-JP

あなたが仕事全般についてどのように感じているかをお尋ねします。 以下のことは、どの程度当てはまりますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

全く当てはまらない	当てはまらない	当てはまる	非常によく当てはまる

(1) 校長の仕事は、悪いことより、良いことの方が明らかに多い

☐ ☐ ☐ ☐

(2) もう一度仕事を選べるとしたら、また校長になりたい

☐ ☐ ☐ ☐

(3) 可能なら、別の学校に異動したい

☐ ☐ ☐ ☐

(4) 校長になったことを後悔している

☐ ☐ ☐ ☐

(5) 現在の学校での仕事を楽しんでいる

☐ ☐ ☐ ☐

(6) 他の職業を選んでいた方が良かったかもしれないと思う

☐ ☐ ☐ ☐

(7) この学校を良い職場だと人に勧めることができる

☐ ☐ ☐ ☐

(8) 教職は社会的に高く評価されていると思う

☐ ☐ ☐ ☐

(9) 現在の学校での自分の仕事の成果に満足している

☐ ☐ ☐ ☐

(10) 全体としてみれば、この仕事に満足している

☐ ☐ ☐ ☐

PQ_57_ja-JP

以下のことは、どの程度当てはまりますか。

それぞれについて、当てはまるものを一つ選択してください。

	全く当てはまらない	当てはまらない	当てはまる	非常によく当てはまる
(1)	☐	☐	☐	☐
(2)	☐	☐	☐	☐
(3)	☐	☐	☐	☐
(4)	☐	☐	☐	☐
(5)	☐	☐	☐	☐

(1) 職務に対して支払われる給与に満足している

(2) 給与以外の校長としての雇用条件に満足している（例：福利厚生、勤務時間）

(3) この学校の教職員から受ける支援に対して満足している

(4) 国・地方自治体から、より多くの支援が必要である

(5) 自分の職務にとって重要な意思決定に影響を与えることができない

PQ_Headline_End_ja-JP

質問はここまでです。

御協力ありがとうございました。

この質問紙への回答が終わりましたら、校内締切り日までに、終了したことを必ず校内担当者にお伝え願います。